

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和5年度～令和7年度）
研究開発課題名	モダリティの組織選択的送達と経口吸収を可能にする創薬デザイン技術開発
代表機関名	熊本大学
研究開発代表者名	伊藤 慎悟

総合評価：良い

【評価コメント】

本研究は、ペプチド・タンパク質のSLS ペプチドを用いた脳内送達研究及びDNP ペプチドを用いた経口吸収性向上研究に取り組み、いずれも一定の研究進展と有用な知見を得るとともに、それらの成果を企業との共同研究へと展開した点は評価できる。さらに、リンカーを介してSLS ペプチドを付加するのみで抗体のBBB透過性が向上することを見出した点は学術的にも興味深く、その分子機序が解明されれば、中分子から高分子医薬に至る幅広いモダリティの脳内送達技術としての応用可能性を有している。一方で、実用化に向けた出口戦略の観点からは、研究達成が未達な点もある。

今後は、ペプチド・タンパク質医薬の薬効発現に十分な送達・吸収を実現するための技術開発を進めるとともに、安全性評価を着実に実施し、本技術の有効性及び実用性をさらに明確化することを望む。

以上